

巻 頭 言

大阪医科大学看護学部 教授 赤澤 千春
(Chiharu Akazawa)

本雑誌は、大阪医科大学看護学部における教員などの研究成果を広く看護界に発信し、看護学の向上と発展に寄与することを目的として、看護学部が開設された年度に創刊され、このたび、第11巻が発刊されました。

2020年は新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。2020年の年明け早々に、中国で最初に確認されてからあっという間に世界中に蔓延し、日本でも3月ごろから本格的に広がりを見せ、4月には大学への登校禁止によるオンデマンドを使つての講義が開始となりました。オンデマンド、リモート、Zoomなど今回初めて聞く用語に教員一同四苦八苦をし、慣れない中でも何とか講義を続けることができました。そのような状況下で対面でのデータ収集は困難を極め、研究計画の変更やインタビューをリモートで行うなど各自が努力を重ねてきました。今回はそうした中での研究の投稿となりました。

本雑誌への投稿は院生のみならず大阪医科大学に関連している教員、看護職であれば誰でも投稿ができます。研究を論文化するにはそれなりの作法があります。それをまず経験し、他の研究者からのご意見をいただき、さらにより良い論文にしていく作業があります。まずは研究が学会発表だけで終わらず、論文文化にチャレンジしてほしいと思います。本雑誌はそれを手助けする雑誌でもあります。大阪医科大学看護研究会も毎年3月に開催されます。看護研究は研究をすることが目的ではなく、得られた結果が臨地で活用されて初めて意味を成すものです。研究会、雑誌の論文発表はその機会でもあります。今後とも、多くの看護研究者・看護職の皆様の投稿をお待ちしております。